

聴覚障害者及び視覚障害者のための大学

# 筑波技術大学ニュース



国立大学法人

筑波技術大学

第 30 号

発行日：2014年2月

[www.tsukuba-tech.ac.jp](http://www.tsukuba-tech.ac.jp)



筑波技術大学では、筑波技術大学ニュースのメール配信を行っております。ご希望の方は、件名を「筑波技術大学ニュースメール配信希望」、本文に、「団体名（個人名）」をご記入の上、筑波技術大学総務課企画・広報係（[kouhou@ad.tsukuba-tech.ac.jp](mailto:kouhou@ad.tsukuba-tech.ac.jp)）までメールにてご連絡ください。



筑波技術大学に事務局を置く日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan) は、平成25年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰のうち、極めて顕著な功績又は功労があったと認められるものに対して与えられる最高位の賞【内閣総理大臣表彰】を受賞しました。

授賞式には、PEPNet-Japan 代表である本学の村上芳則学長及び PEPNet-Japan 運営委員長である愛媛大学高橋信雄教授が出席し、村上学長が安倍晋三内閣総理大臣から直接賞を頂きました。（詳しくは3ページをご覧ください）

## ● 学長年頭あいさつ

仕事始めを迎えた1月6日、村上芳則学長は天久保キャンパス大会議室において、教職員を前に年頭あいさつを行いました。

あいさつでは、運営費交付金の削減、消費税の増税など、厳しい予算の中で各大学に提示されている大学の機能強化、大学改革実行プランへの対応が必要であること、また、障害のある学生がより良い社会自立が実現できるよう、教員個々が教育を大切に、真摯に学生と向き合い、授業内容の充実、単位の実質化に向けて、今まで以上に厳しい姿勢で臨んで欲しいと述べました。

(総務課総務係)



あいさつを聞く教職員

## ● 情報アクセシビリティ専攻に関するご案内

4月1日より本学の大学院技術科学研究科に「情報アクセシビリティ専攻（修士課程2年制）」が設置されることになりました。情報アクセシビリティという用語は広く浸透していませんが、情報の収集が困難な人々に様々な方法を使ってアクセス（＝近づく）することを可能にすることを意味します。

現在、本学の大学院技術科学研究科には産業技術学専攻と保健科学専攻の2専攻があり、各専攻が3コースを有し、計6コースの専門があります。産業技術学専攻（聴覚障害系）は、情報科学コース、システム工学コース、総合デザイン学コースの3コースからなり、保健科学専攻（視覚障害系）は鍼灸学コース、理学療法学コース、情報システム学コースの3コースで構成されています。

上記2専攻が本学の産業技術学部（聴覚障害系学部）と保健科学部（視覚障害系学部）を基盤とする大学院である

のに対して、「情報アクセシビリティ専攻」は、障害者高等教育研究支援センターを基盤とする大学院です。障害者支援（聴覚障害）コース、障害者支援（視覚障害）コース、手話教育コースの3コースで構成されています。

本専攻の目的は、聴覚や視覚に障害のある学生の修学や就労に寄与する高度な専門性を有する支援者、技術者、コミュニケーション教育研究者等の養成です。自らが受けた情報保障を発展させて更に良い支援を研究しようとする障害のある方々のみならず、それらを支援する障害のない方々も本専攻では学べるのが、他の2専攻と大きく異なる点です。

平成26年度入学試験は1月16日に実施されました。定員は一般選抜5名と社会人選抜若干名です。本学の卒業生、他大学で学ぶ学生（卒業見込みも含）、障害学生支援や情報保障に関心のある方に広くご紹介頂けますと幸いです。

(障害者高等教育研究支援センター 須藤 正彦)

## ● 平成25年度地域連携に関する講演会を開催

12月3日、天久保キャンパス講堂において、学術・社会貢献推進委員会主催の平成25年度地域連携に関する講演会を開催しました。

当日は、最初に、「命のことづけ～死亡率2倍 障害のある人たちの3.11～」という映画を上映し、その後、その映画にも出演されている福島県点字図書館長の中村雅彦先生に「東日本大震災から学ぶ（あと少しの支援があれば）」をテーマとして、障害者の被災と避難の実情、必要な支援環境づくりについてご講演いただきました。

講演会には、本学教職員、学生、及び地域住民の方々合わせて約70名の参加がありました。当講演会が震災から999日目にあたる事から、この未曾有の千日の日々に見られた問題点を率直に振り返り今後の私達一人ひとりの行動を身近なところから考えさせられる内容でした。

(学術・社会貢献推進委員会 石原 保志)



講演する福島県点字図書館長の中村雅彦先生

## ● PEPNet-Japan が内閣総理大臣表彰を受賞

12月9日、筑波技術大学に事務局を置く日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）は、平成25年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰のうち、極めて顕著な功績又は功労があったと認められるものに対して与えられる最高位の賞【内閣総理大臣表彰】を受賞しました。

この表彰は、高齢者、障害者、妊婦や子ども連れの人を含むすべての人が安全で快適な社会生活を送ることができるよう、ハード、ソフト両面のバリアフリー・ユニバーサルデザインを効果的かつ総合的に推進する観点から、その推進について顕著な功績又は功労のあった個人又は団体を顕彰し、もって、バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する優れた取組を広く普及させることを目的としています。

今回受賞した日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）は、聴覚障害学生の高等教育におけるバリアフリー・ユニバーサルデザイン化を目的に設立され、22大学で構成された全国ネットワークであり、モバイル型の遠隔情報システムによる授業聴講支援を行うなど、大学・関係者の間をつなぎ、それぞれが持つノウハウを共有・発信することで、現在ある聴覚障害学生支援体制の基礎を生み出し、大学の取組に対する支援及びその普及・定着に大

いに貢献していることを評価され、表彰されるに至りました。

表彰式は、内閣総理大臣官邸において執り行われ、授賞式には、PEPNet-Japan 代表である本学の村上芳則学長及び PEPNet-Japan 運営委員長である愛媛大学高橋信雄教授が出席し、村上学長が安倍晋三内閣総理大臣から直接賞を頂きました。

表彰に際して安倍内閣総理大臣からは、本学が構築したモバイル型の遠隔情報保障システムに関しての言及もあり、本学としても今後の活動の励みになることと思います。設立から9年目に入った PEPNet-Japan の事務局は本学の聴覚障害学生支援・大学間コラボレーションスキーム構築事業（T-TAC 事業）の一部として運営されており、PEPNet-Japan への問い合わせや技術支援依頼対応の多くは、この T-TAC 事業が日々対応しております。

下記のウェブサイトで、受賞の様子を視聴することができます。

● 政府インターネットテレビ：

<http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg8979.html>

（障害者高等教育研究支援センター

（PEPNet-Japan 事務局長代行）三好 茂樹）



授賞式後の集合写真。最前列右から4番目が村上学長。

## ● 第6回三大学連携・障がい者のためのスポーツイベントを開催

11月16日、天久保キャンパス体育館やコミュニケーションホールにおいて、「第6回三大学連携・障がい者のためのスポーツイベントー障がいのある人、スポーツ・遊びに参加しようー」が開催されました。当日は晴れ、気温17度と天候に恵まれました。

実施されたのは、ビームライフル、フリークライミング、フライングディスク、自由遊び、ボッチャ、スポーツ吹矢及び卓球・音卓球・卓球バレーの7種目でした。

三大学連携で実施する本イベントは、回を重ねるにつれ

認知度が高まり、多くの方が訪れるようになっていきます。今回は近隣の特別支援学校の行事日程と重なったこともあり、スタッフを含めおよそ60名の参加となりました。大学の地域貢献事業として今後も継続するとともに、更なる展開を検討しています。

なお、本イベントは筑波技術大学基金から予算支援を受けて開催されました。また、今年度は、筑波研究学園都市50周年記念事業の連携事業としても認められています。

(障害者高等教育研究支援センター 天野 和彦)



ビームライフルをプレーする参加者



フリークライミングを楽しむ参加者

## ● 春日キャンパス隣のファミリーマートに点字ブロック敷設

11月20日、学生たちが多く利用するファミリーマートの駐車場に、点字ブロックが敷設されました。歩道から店の入り口まで20m近く一直線に敷かれています。

以前は、「全神経を集中させて必死の思いで行っている」という声がありましたが、この点字ブロックにより、全盲の学生も快適でより安全にお店の入り口に向かって進むことができるようになりました。ある学生からは「僕が最初にその上を歩いた」という喜びの声もありました。

この点字ブロックは、店長、つくば営業所スーパーバイザー各位のご理解と、建物等のオーナーの方のお力のたまものであり、学内有志の2010年来の夢の実現となりました。

(保健科学部情報システム学科 関田 巖)



敷設された点字ブロック

## ● 夏季デフリンピック競技大会成績優秀者厚生労働大臣表彰受賞

7月26日から8月4日にブルガリア・ソフィアで開催された、第22回夏季デフリンピック競技大会で優秀な成績を収められた方を表彰する式典が、12月12日に、厚生労働省中央合同庁舎で行われました。

表彰式には、本学から、産業情報学科4年の品田千紘さん(バドミントン)と同学科4年の中村晃大さん(陸上競技)が出席しました。また、同日の午後には天皇皇后両陛下に拝謁しました。

(総務課企画・広報係)



受賞した本学関係者

## ● 鍼灸・医学用語の点訳音訳辞書システムを Web 版にリニューアル

障害者高等教育研究支援センターでは、鍼灸・医学用語の点訳音訳辞書システムを Web 版にリニューアルし、インターネット上で公開しました。

理療（あん摩・マッサージ・指圧、鍼、灸）は、視覚障害者の重要な職業分野ですが、鍼灸や手技療法を学ぶ視覚障害者のための学習資料の制作では、専門用語の点訳や音訳の難しさが問題となります。そこで、そうした難語の点字表記や読み方を PC 上で簡単に調べられる辞書システムを開発し、2009 年度から全国のボランティアグループなどに無償で提供してきました。この「鍼灸・医学用語の点訳音訳辞書システム」が文部科学省特別経費プロジェクトにより Web 版にリニューアルされインターネット上で運用されています。これにより、PC に加えてタブレット端末などでの検索も可能になり、利便性が向上しました。また、同時に、辞書中の点字表記の一部を 2012 年に定められた点訳の統一基準に従って修正し、更に現在、搭載語彙を増やす作業を順次進めています。



タブレット端末でも検索が可能

### ● 鍼灸・医学用語の点訳音訳辞書システム Web 版

<http://www.ntut-braille-net.org/jishoN/jishoN.php>

（視覚障害系支援課 小野瀬 正美）

## ● 第 9 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムを開催

12 月 8 日、群馬大学荒牧キャンパスにおいて第 9 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムを開催しました。今回は過去最高の 404 名（本学関係者含む）が参加し、例年以上の大変な盛り上がりを見せました。

午前中は 4 つの分科会に分かれて活発な意見交換がなされました。特に、石原保志副学長が企画コーディネーターを務めた分科会 2「面接にチャレンジ！－聴覚障害学生と就職活動－」では、聴覚障害学生の就職活動に焦点を当て、本番さながらの模擬面接を行い、アドバイザーから具体的な助言がなされ、参加した聴覚障害学生や就職担当教職員に大変好評でした。

全体会 1 では特別講演が 2 つ設けられ、初めに文部科学省高等教育局学生・留学生課厚生係・就職指導係長田畑潤司氏に「我が国の障害者施策の動向と大学等における今後

の対応」と題したご講演をいただきました。続いて、聴覚障害当事者であり弁護士でもある田門浩氏から聴覚障害学生支援における合理的配慮について、より具体的な事例を挙げてお話し頂きました。どちらも、現在障害学生支援に関わる関係者の関心が最も高いテーマであり、参加者の皆さんは真剣な様子で聞き入っていました。

午後は、アフタヌーンセッションとして、複数の企画が行われました。恒例となった「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト」では、18 団体から寄せられた 19 点のポスターが並べられ、会場のあちこちで熱いプレゼンテーションが繰り広げられていました。また、昨年度から設けられた、3 つのテーマについて各 30 分程度でわかりやすく解説する「ミニセミナー」や、各分野の専門家とじっくり話ができる「相談コーナー」が今回も設けられ、参加者の広い関心に応えることができました。本学からは、大学・大学院の紹介パネル展示の他、機器展示として、産業技術学部の鈴木拓弥講師と保健科学部の小林真准教授による「聴覚障害学生向けソフトウェア操作教示ツール SZKIT」、産業技術学部の若月大輔准教授による「ウェブブラウザによるオンライン文字通訳システム『captiOnline』」、技術科学研究科大学院生による「匿名コミュニケーションのための手話映像表現」の研究が紹介されました。

年々本シンポジウムへの参加者が増加していることから、聴覚障害学生支援の全国的な広がりが感じられます。聴覚障害学生支援のさらなる発展を目指し、来年はつくば市で開催の予定です。

（障害者高等教育研究支援センター 萩原 彩子）



分科会 2 での模擬面接

## 筑波技術大学基金活動報告



平成24年4月、本学に設立された「筑波技術大学基金」は、多くの方々から温かいご支援をいただき、平成24年度は学生の修学への支援を中心とした事業を展開することができましたので、ここに活動の概要をご報告させていただきます。なお、詳細は基金のホームページをご覧ください。今後はさらに本学の特色を生かした多様な学生支援を展開することとしていますので、引き続き多くの皆様方に格段のご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

### ● 平成24年度の活動について

#### 1. 目的の設定等

基金創設初年度のため、筑波技術大学基金の目的設定や体制整備等を行いました。

#### 2. 事業の実施

平成24年度は次の6件の事業を実施しました。

##### (1) 学生の修学への支援

- ・放送大学との単位互換に伴う学習支援 77,000円
- ・臨床実習補助金の支給 210,000円
- ・学生企画コンテスト開催支援 200,000円
- ・他大学との連携によるスポーツイベントの開催支援 750,000円
- ・双峰賞（学生表彰）の授与 100,000円

##### (2) 外国の大学等との教育交流及び本学の留学生への支援

- ・海外留学補助金の支給として、本学で実施している5つの学生海外派遣事業（韓国、欧州、米国東部、米国アイオワ、ロシア）のうち、費用が高額となる欧州、米国、ロシアについて、計14人の支援を行いました。 1,840,000円

#### 3. 広報等

基金PR活動の拡充及び募金活動等を推進するため、基金のパンフレットの作成や本学ホームページに基金のページを掲載し、広く内外へ周知しました。

#### 4. 顕彰

寄附をいただいた皆様のご厚意に対して、大学の基金ホームページに名前を掲載（匿名希望者を除く）し、感謝の意を表しました。また、天久保キャンパス学生会館2階に寄附者銘板を設置し、高額寄附者を顕彰しました。

#### 5. 募金活動

基金パンフレットを、卒業生、在学生家族、卒業生就職先企業、本学教職員OB、旧財団（筑波技術大学教育研究助成財団24.3解散）関係、盲学校・聾学校等へ送付しました。また、旧財団関係企業、卒業生の就職先企業及び近隣企業等合計28社に、学長、理事及び担当者が直接訪問して支援をお願いしました。

### ● 平成24年度実績報告について

収入（寄附金等）と支出（事業費）

#### ・収入

寄附金（個人）	236件	3,705,393円
寄附金（法人等）	15件	1,280,240円
寄附金（旧財団）	1件	185,880,262円
普通預金利息		22,052円
合計	252件	190,887,947円

#### ・支出

事業費	2,977,000円
合計	2,977,000円

※ 学生企画コンテスト開催支援（200,000円）は、平成25年8月支出となります。

※ 平成24年度の基金運営費は大学予算で賄っているため、寄附金からの支出は事業費のみとなります。

基金の最新情報については、ホームページでご案内しておりますので是非ご覧ください。

<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/kikin.html>

### ● お申込み・お問い合わせ

筑波技術大学 総務課内 基金担当

TEL：029-858-9416

※ 電話受付 9：00～17：00（土・日・祝日を除く）

FAX：029-858-9312

E-mail：kikin@ad.tsukuba-tech.ac.jp